

2月4日(木)に東北医科薬科大学医学部感染症学教室 特任教授 東北大学名誉教授・客員教授の新型コロナウイルス感染症対策を行う東京 iCDC 専門家ボードで座長を務める賀来満男先生のご講演を聴く機会がありました。

冒頭の自己紹介では、別府市出身で、本校の卒業生であるとのことと、とても、うれしく感じました。ご講演の内容を次の通りまとめてみました。

- 新型コロナウイルス感染症は冬に増える。
 - ・4℃では14日安定し、37℃では24時間安定する。
- 季節性インフルエンザより、死亡率、重症化は、はるかに高い。
 - ・新型コロナウイルス感染症死亡率2.2%(中国)、100人のうち1人は重症化(東京都)
- 4大症状は、発熱83-99%、せき59-82%、だるさ44-70%・食欲低下である。
 - ・長引くかぜ症状に注意する。
 - ・その他、味や臭いを感じない、鼻炎症状、咽頭炎症状、消化器症状、結膜炎、発疹などもある。
- 自分がかかっているかもしれないと思って行動することが大切である。
 - ・無症状感染者は2-4.5割、無症状感染者からの感染は59%を占める。
- 新型コロナウイルス感染症の特徴
 - ・人と人が出会うとうつるが、すれちがっただけでは感染しない。
 - ・うつりやすい場所や状況を理解することが大切である。
- 予防のポイント
 - ①3密回避・・・感染者の75%は人にうつしていない。
 - ・換気の悪い密閉空間、多くの人が集まる場所・近距離での会話・歌う・大声・荒い息(運動時)
 - ・飲食店
 - ②飛沫対策
 - ・無症状の感染者や発症前の感染者がウイルスを排出するため、他の人が2m以内にいる時は常にマスクをつける。このようなマスクの使い方をユニバーサルマスクングと言う。
 - ・ジャストサイズのマスクを着用する。
 - ③手洗いの徹底
 - ・マスクをつけていたのに感染するのは、目を触ることが原因であることが多い。
 - ④その他
 - ・部活動、対外試合は、特に感染予防を徹底する。
 - ・換気を徹底し、スマートフォンの貸し借りをしないようにする。



保健室の窓から

R3.2.24
附属中学校
保健だより
第12号
文責 田中



VI期中頃の保健目標 花粉症を予防しよう。

1月末ごろから、花粉症症状の人が出始めました。マスクを常に着用していること、例年より飛散量が少ないことから、今年はづらい症状の人が少ないように感じています。

しかし、ここ数日、暖かいため飛散量が増え、症状のある人が増え始めました。また、例年より飛散量が少なくても、昨年よりは多いため、昨年、症状がなかった人も注意が必要です。花粉症の人は、新型コロナの関係でくしゃみをするときを気にし、マスクをはずして鼻をかむと自分が感染するリスクも高くなります。耳鼻科を受診し治療すること、特に自転車通学生は登校直後に症状が悪化するみとことがあるため、顔、手を洗うこと、くしゃみをするときが多い時は不織布マスクを使うなどを心がけましょう。

近頃の保健室

- 3年生卒業まで、あと7日となりました。WITH コロナでの学校行事や部活動、受験で、とまどうことも多かったと思います。それでも、置かれた状況を受け止め、いつも明るく元気な姿は本当に立派でした。保健室のそうじ当番や保健係の仕事も誠実に取り組んでくれました。1・2年生に附中の先輩としての後ろ姿を見せて過ごしてもらいたいものです。
- 本校では、今年度インフルエンザにかかった人は2月22日現在では0人で大分市内でも、ほとんどいません。新型コロナウイルス対策のおかげですね。考えてみれば、手洗い換気などふだんからインフルエンザ対策で言われていることです。コロナが収束しても、続けられるといいですね。
- 「来年、修学旅行に行けるかな」と1年生。行けるといいですね。

